



神戸市東灘区住吉本町 1-4-4

TEL・FAX 078-822-2066

E-メール fkmds@muf.biglobe.ne.jp

URL <http://www2s.biglobe.ne.jp/~fkmds/>

終わりました。ありがとうございました！

金沢景子モダンダンスリサイタルV 11月25日(日) 神戸ファッション美術館 オルビスホール

～彼方からここへここから彼方へ～ 虚空から成る 風を宿す 火は生じる 水と巡る 地に立つ

出演 寺井美津子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 石井麻子 板垣祐三子 梁河茜 平岡愛理 田中文菜 佐藤茉莉 稲益夢子
菊原麻衣花 木村はな 清河鈴羽 田口寧々 菊原麻理奈 渡邊菜子 村上美羽 坂本のより 中野茉步 金沢景子

リサイタルを終えて

昨年11月25日のリサイタルではおかげ様でたくさんのお力をいただき、無事に終演することができ、ほんとうにありがとうございました。本番は何か起こるか分からない未知の場。ダンサー、ジャズミュージシャン、観客全員が、その日のコンディションや周囲の環境、星の巡りにまで影響をします。録音した音源で練習して、ミュージシャンとのリハーサルは前日と当日の2回だけ。ジャズは本来アドリブが主体。ダンサー同士とミュージシャンのみなさんと無言のコミュニケーションを思いっきり楽しみながら70分のステージを創れたことはこの上ない喜びです。7人も素晴らしいミュージシャンのみなさんと一緒にできる機会はそうあるものではありません。本当に贅沢で有り難い経験でした。ホールに居てくださったみなさんにその時の興奮、生きている実感、喜びが伝わっていたら本望です。心より感謝とお礼を申し上げます。

金沢景子

今回、金沢景子リサイタルに演奏者のひとりとして参加させていただきました。

唐突ですが、楽器から出た音はすぐに消えずにしばらくは空中に残ります。ホールの場合、残響時間が1.5秒から2秒が理想とされています。残響がある状態を「ライブな音」と表現しますし逆に音が吸収されて残響がほとんどない状態を「デッドな音」と表現します。

ライブとは生きている、デッドは死んでいるという事です。リサイタルの会場の残響時間がどれくらいだったか計測はしていませんが残響時間は確かにありました。空気の振動が構造物や人で不規則に屈折しながらやがては吸収されていくまで音は生きています。残響時間が仮に2秒のホールなら楽器から生まれた音が空中に2秒間だけ漂って消えていくのです。

失敗しても誰もその音を二度と捕まえる事はできません。それが生演奏の恐さであり醍醐味でもあります。生演奏...つまりライブは今ここに生きている証でもあります。

生きは息と同じ、息をしてなければ「お前はすでに死んでいる」となっちゃいます。

演奏者は演奏者同士、五感をフルに機能させて息を合わせます。自分の心と書いて息です 自分の心を他の心とひとつにしなければ息は合いません。リサイタルはすべて生演奏、しかもすべての楽曲が書き下ろしでした。これは様々な不幸を呼び寄せる原因になりかねません。(笑)

まず、ダンサーの皆さんが普段の稽古に使用する音源はどこにも売っていません。

したがって、東京のスタジオで一発録りした不馴れな機材の録音レベルの怪しいものと、これまた東京の蕎麦屋でライブ前に録音した厨房の井鉢を重ねる音やネギを刻む小気味良い音が入った劣悪なる音源しかありませんでした。本当にすみません。また、生演奏であるが故に稽古での音源とテンポが違う事もあったと思います。でも、ダンサーの皆さんは見事に生の音に息を合わせて下さいました。

僕は自分の出番の【地に立つ】まで【客席後方に立つ】状態でステージを見ていたのですが対応力の高さに驚きました。終演後にダンサーから「井とネギを刻む音がなかったから踊りにくかった」とお叱りもなく胸を撫で下ろして下さいました。

今回のリサイタルではステージと客席の段差がまったく無く、三方ともに客席で、しかもステージ奥には人相の悪いバンドマンが陣取っている事もあり、お客さんも誰かに見られているような不思議な緊張感の中で、より一層集中力を高められたような気がします。

開始から私語はおろか咳きひとつなくステージと客席の一体感がひしひしと伝わりました。ダンサーと演奏者とお客さんの息がまさにひとつになったのじゃないでしょうか。演目の区切りの拍手のかわりに息をのんでいる感じが伝わりました。

開演早々から筋肉を弛緩させる事なく息をのんでのんで、もう限界！というところで大円団お祭りムード、盆踊り的な【地に立つ】でしょ。そりゃもう、今までの緊張が一気に解き放たれますよ。この瞬間を待っていた！みたいな・・・。

感動は舞台の上だけにあるものではありません。また、客席だけにあるものでもありません。舞台と客席の間に生まれるものなんですね。

言葉は便利だけど思いを完璧に伝える事ができません。踊りや音楽には言葉は無いけれど、思いを伝える事のできる大きな大きな力があると実感しました。

とりとめのない事をダラダラと書いてしまいました。

最後に、お忙しい中お運び頂いた観客の方々。素晴らしい演技を披露して下さいましたダンサーの皆さん、主宰の佳代先生、舞台監督をはじめとする照明、音響、アナウンス、衣装、受付などのスタッフの皆さん。かけがえのない友人でもあるバンドのメンバー。

そして、このリサイタルを企んだ張本人で我が妻でもある景子先生。関わった全ての方に最大の敬意と感謝を込めて...

ありがとうございました。

長谷川こうじ

みにきてください！

創作実験劇場

3月17日(日) 17:00開演 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール

出演 石井榊結 松浦歩里 高橋陽奈 福本莉菜 中野茉歩 坂本のより 村上美羽 菊原麻理奈 渡邊菜子 菊原麻衣花 稲益夢子
田中文菜 平岡愛理 梁河茜 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子 寺井美津子

作品コメント

海の声 寺井美津子

小さい頃から、台風で荒れた海を見るのが大好きでした。もちろん、安全な場所から。普段は、ゆったりとしている海が突然荒れて、色も表情も全く別のものになって、波止場の先の灯台を何度も何度も飲み込んでいく。いつもは穏やかで何もかもを受け入れる海が、何かを叫ぶかのように豹変する、まるで、身勝手に押しつけられたものを吐き出すかのように。そんな海の声、大学、高校生のエネルギーを集めて踊ります。

月の森にねむる 菊本千永

ここは、月の森。顧みられることなくなった命がねむる。月の光がさしこむと命はひっそりとめざめ、またねむりにつく。

追う—遠ざかる遠景 かじのり子

追えば追うほど遠ざかって行くように思われる風景や場所。それでもなお追いたい気持ちを群舞にしました。

私は踊ることも創ることも好きで、自作品に出演することも好きです。が、振付が思いつかないこともあります。そんな時は、ダンサー皆さんによく助けてもらいます。「ここは低い姿勢で踊ってもらいたいねんけど」、「無機質な感じがええねんけど」、「ここからあっちまで50秒ほど踊りが足りないねんけど」等々、こんな感じで、とお願いすると、グループに分かれてあれやこれやと相談し、少し経つともう完全な振付が出来上がります。こんなゆる〜い指示で・・・凄い！今回の作品で2回グループダンスが出てきますが、2回目がダンサー皆さん作です。お仲間の皆様、ありがとうございます！

鬼影 金沢景子

<我が影は 鬼が踊るか 稲光り>(富澤赤黄男)の句を元に、逆に鬼の影とは??と考へましたが、そもそも実体のない“鬼”を実体のない“我”が踊る。あらゆる存在はただ心、思いだけがあるだけなので私の心に生じた映像を作品にしました。リサイクルにも参加して下さった尺八奏者の稲澤笑亀さんの作曲、演奏で踊ります。

華の終い 向井華奈子

椿・落ち 梅・こぼれ 菊・舞い 牡丹・崩れ

日本語にはそれぞれの花の散り際をこのように表す言葉があるそうです。花たちは満ち満ちて満開を迎えて、まさに、その姿で終わりを迎えます。ただ、この終わりはまた次への始まりのための終わりであります。また、次の季節に。

nowhere 平岡愛理 田中文菜

どこにもない、今。どこにもない、わたし。周りから刺激を受け、感応され、成長する。わたし達はたくさんの人や物事の流れの中に生きている。一瞬、一瞬、変化する流れの中に。でもわたしは、わたしひとり。

満ちる—10拍子のうた 藤田佳代

人間はいつから数をかぞえるようになったのでしょうか。手の指が左五本右五本あると気づいたのはいつ頃なのでしょう…と考へているうちにできた踊りです。音楽は使わず、10カウント1拍手で踊りができました。

出演します！

「満ちる」というダンスは音楽のないダンスで、他の人と息を合わせて手足を動かすのはとても苦労しました。また、何かを拾ったり失ったりするのは人生とよく似ていることを知りました。私はそのことをダンスで表現したいと思っています。まだまだですが、堂々と踊りたいです。

福本莉菜(本部 小6)

私は初めて創作実験劇場に出ます。最初は上手にできるかな、ときんちょうしました。練習が始まると、出来なかった事が出来るようになったりして、本番が楽しみになってきました。今回は曲がないので、自分だけずれないように気をつけてがんばります。

高橋陽奈(加古川 小5)

わたしは、「満ちる」ってどんな意味なんだろうと思いました。辞書で調べたら「いっぱいになる」「あふれる」などがのっていました。だからわたしは、手の中の力があふれるように、いきしよと思いました。とてもきんちょうしていますが、がんばろうと思います。

松浦歩里(若江岩田 小4)

私は今回初めて創作実験劇場に出るので、きんちょうしています。でも、このメンバーでおどるのは最初で最後かもしれないと思って、一生けん命がんばります。

石井榊結(加古川 小4)

ご報告

ご報告が遅くなりました。昨年の発表会の際には、気仙沼市の旭が丘学園への寄付をいただきありがとうございました。おかげさまで20万円の寄付を送ることができました。発表会での「届ける」の上演と旭が丘学園への寄付を10年間続けていく、ということで2012年より始めました。あと、3回になります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。